

「血清MPO-ANCA陽性患者におけるMyeloperoxidaseおよびIgGの糸球体係蹄への沈着意義の検討」に対するご協力のお願い

研究責任者 畔上 達彦
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2012年1月1日から2025年2月28日までの期間の間に、慶應義塾大学病院および本研究参加施設にて、腎生検を受けた18歳以上の患者のうちMPO-ANCA陽性の患者。

2 研究課題名

承認番号 20241208

研究課題名 血清MPO-ANCA陽性患者におけるMyeloperoxidaseおよびIgGの糸球体係蹄への沈着意義の検討

3 研究組織

研究機関
慶應義塾大学病院

研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上 達彦

共同研究機関

佐野厚生総合病院
東京歯科大学市川総合病院
川崎市立川崎病院
日野市立病院
済生会中央病院

研究責任者

(職位) 院長 (氏名) 村上 円人
(職位) 教授 (氏名) 徳山 博文
(職位) 部長 (氏名) 安藤 孝
(職位) 部長 (氏名) 荒木 崇志
(職位) 医長 (氏名) 小松 素明

4 本研究の目的、方法

ANCA関連血管炎に伴う糸球体腎炎として半月体形成性糸球体腎炎が今まで典型的と考えられてきましたが、近年Myeloperoxidase(MPO)-ANCA陽性の患者様でMyeloperoxidaseおよびIgGが糸球体係蹄に沈着する症例が報告されています。これらの症例の病態や臨床病理学的な特徴に関しては未だ小規模な報告しかなく、病態を解明することは重要な臨床課題です。そこで、我々は今回当院および関連施設で腎生検を受けた患者様のうち MPO-ANCAが陽性の患者様の腎生検検体とカルテデータを利用させていただき MyeloperoxidaseおよびIgGが糸球体係蹄に沈着する症例の臨床病理学的特徴を検証させていただきたいと考えております。具体的には該当症例で当院に臨床病理診断目的に提出されているホルマリン固定パラフィン包埋切片および凍結切片を用いてMPO染色 IgG染色、免疫電子顕微鏡を用いてMPOの局在診断を実施します。また MPOの局在および沈着の有無によって腎生検時の臨床的特徴(蛋白尿, eGFR MPO-ANCAのtiter CRP値) および病理学的特徴(硬化糸球体の割合, 半月体形成の割合, 尿細管萎縮/線維化の程度)がどのように異なるか検討いたします。臨床経過に関して対照群としてMPO-ANCA陽性のANCA関連糸球体腎炎患者を設定して、これらの症例群それぞれの腎複合イベント(末期腎不全, 死亡)の発生を追跡して比較検討します。

5 協力をお願いする内容

2012年1月1日から2025年2月28日までの期間の間に、慶應義塾大学病院および本研究参加施設

設にて、腎生検を受けた18歳以上の患者のうちMPO-ANCA陽性の患者様の腎生検検体を用いて上記検討を行わせていただきます。また、カルテデータを取得させていただき解析を実施させていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027年3月31日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究責任者 畔上達彦 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX 03-3359-2745

E-mail: t.azegami-1114@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第2・4・5週の土曜日（ただし祝日は除く）、午前8時40分から午後4時30分]にお願いいたします。

以上